

# 宇宙天気と宇宙気候太陽活動を予測する

名古屋大学宇宙地球環境研究所

名古屋大学理学研究科 太陽宇宙環境物理学(SST)研究室

草野完也







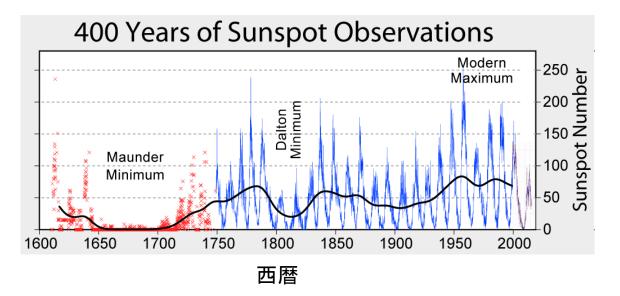
### 宇宙天気と宇宙気候

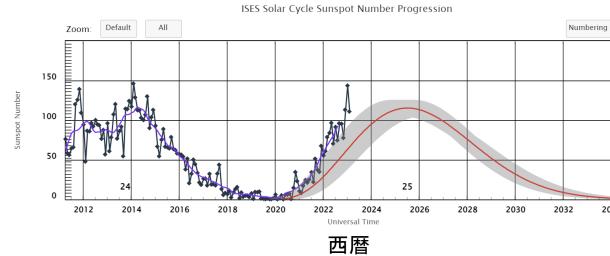
### ■ 宇宙天気 (Space Weather)

■ 短期的な太陽活動(特に、フレア及びコロナ質量放出)に伴って発生する地球と地球 周辺宇宙空間の環境変動:オーロラ嵐、磁気嵐、プロトンイベントなど

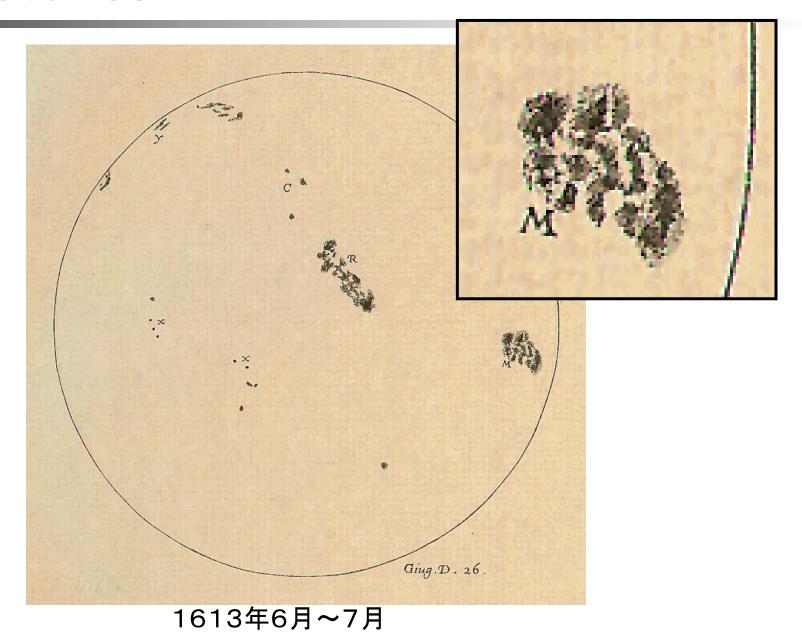
### ■ 宇宙気候 (Space Climate)

長期的な太陽活動の変化(黒点周期変動)に伴って発生する地球と地球周辺宇宙空間の環境変動:気候変動、大気成分変化、大気散逸など

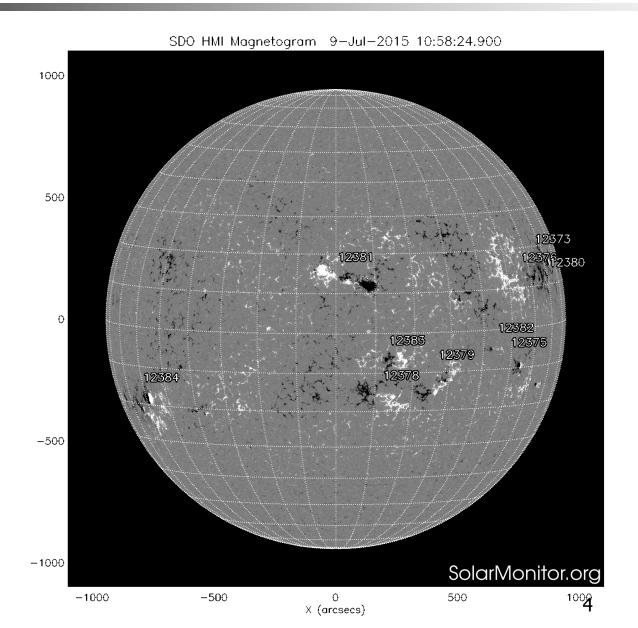




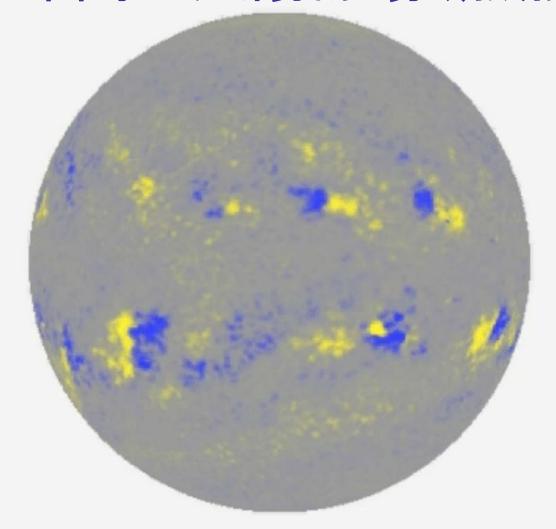
### Galileo's sketches



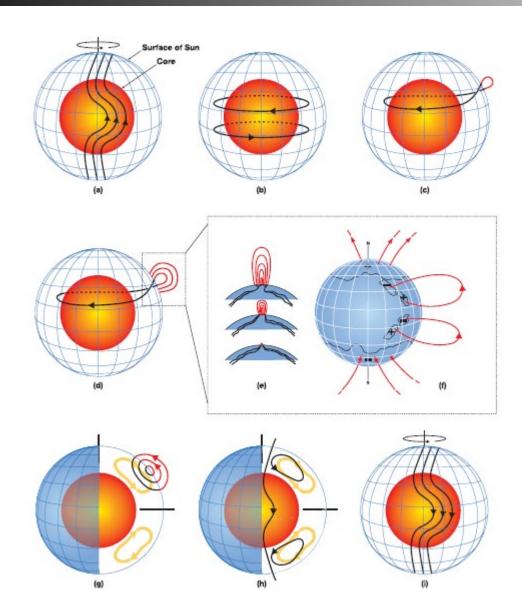
# Solar magnetic field

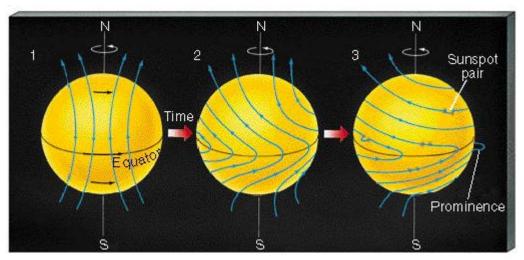


## 過去30年間の太陽磁場(黒点)活動

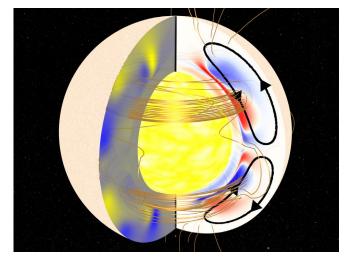


# 太陽周期を説明する磁束輸送ダイナモモデル



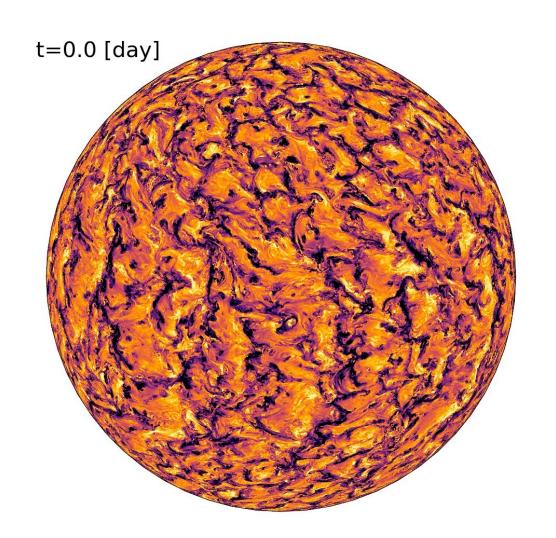


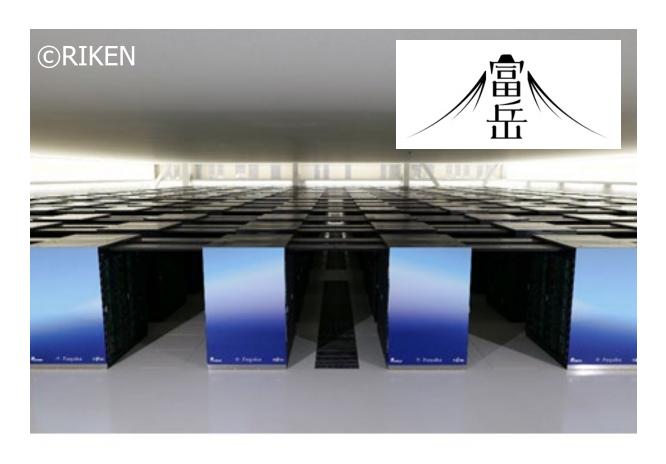
Sun's differential rotation



meridional circulation (子午面循環)

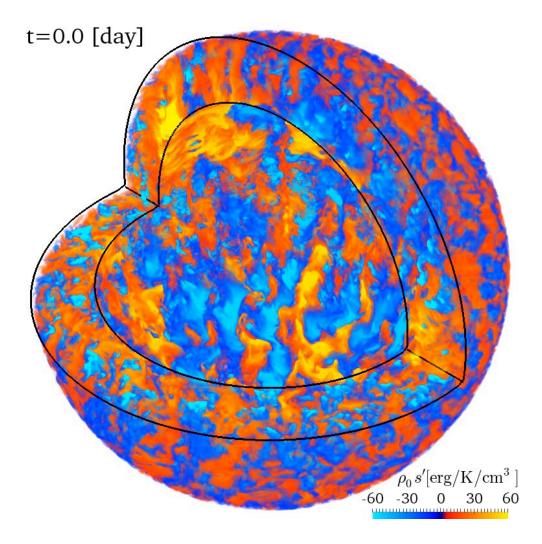
## 太陽対流層シミュレーション

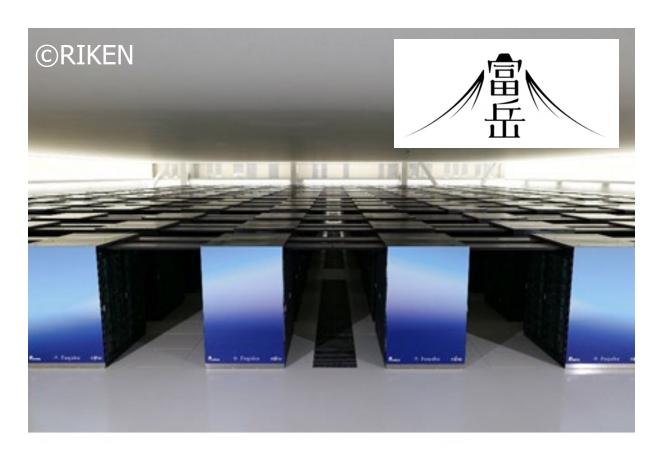




Hotta and Kusano 2021 Nature Ast.

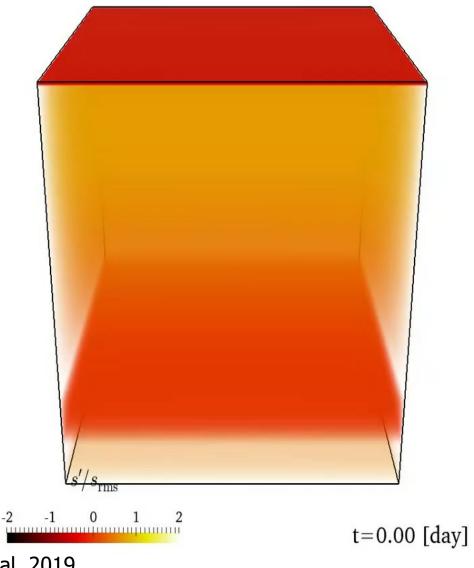
### 太陽対流層シミュレーション

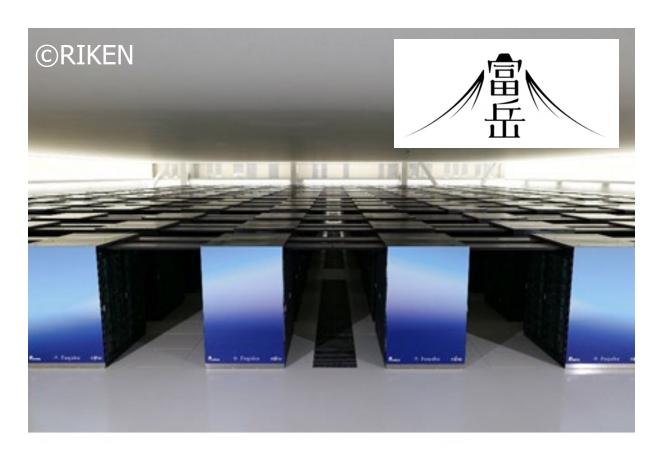




Hotta and Kusano 2021 Nature Ast.

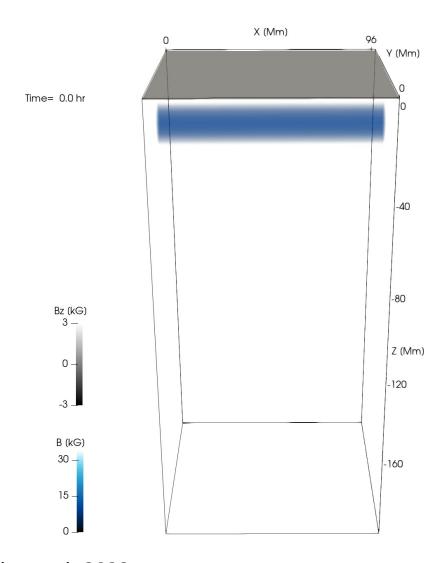
### 太陽対流層シミュレーション

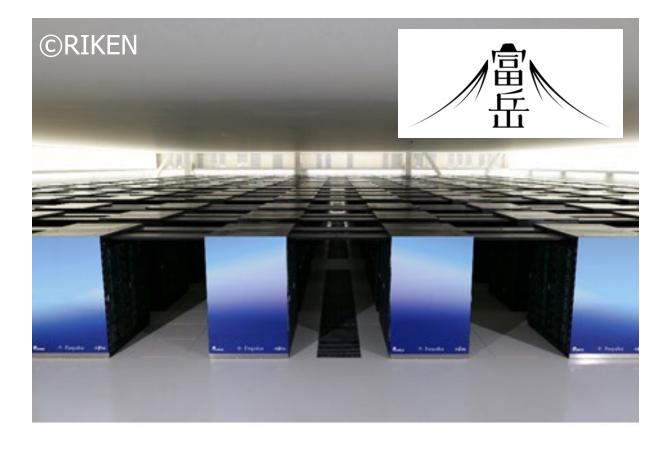




Hotta et al. 2019

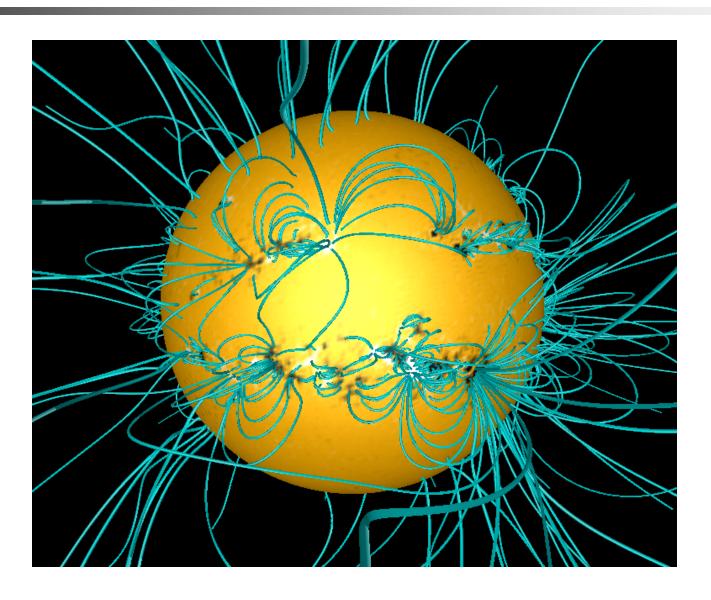
### 太陽黒点形成シミュレーション





Kaneko et al. 2022

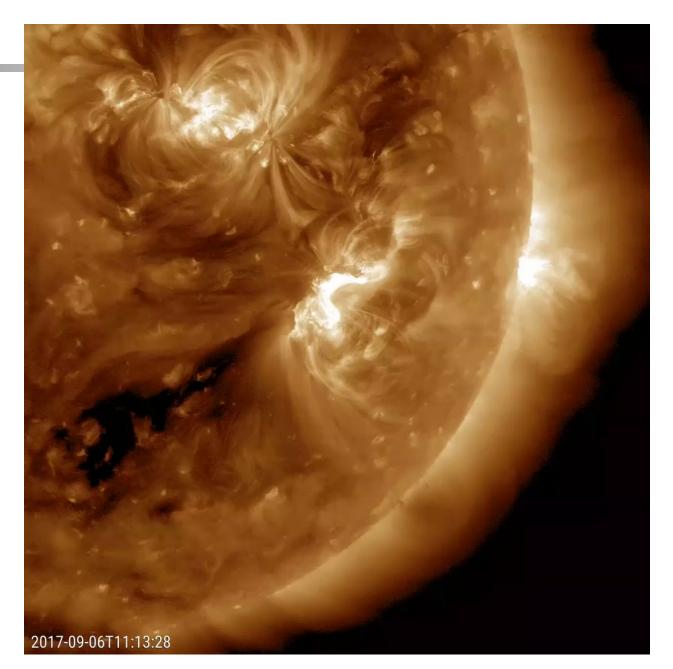
# Coronal magnetic field



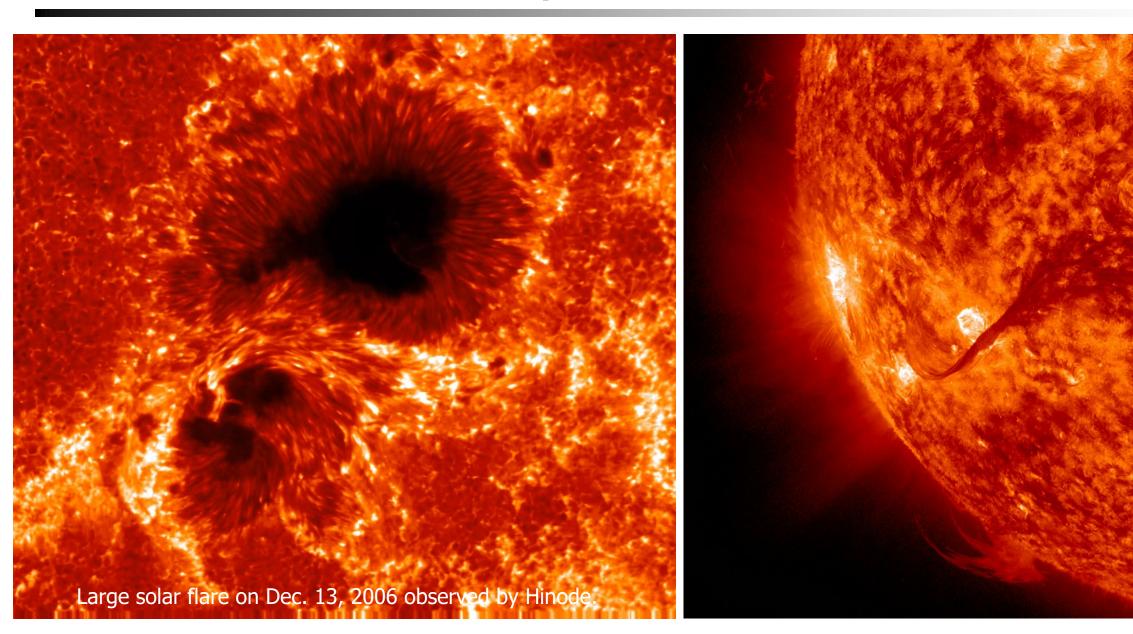
### 太陽面爆発

### 太陽系最大級の爆発現象

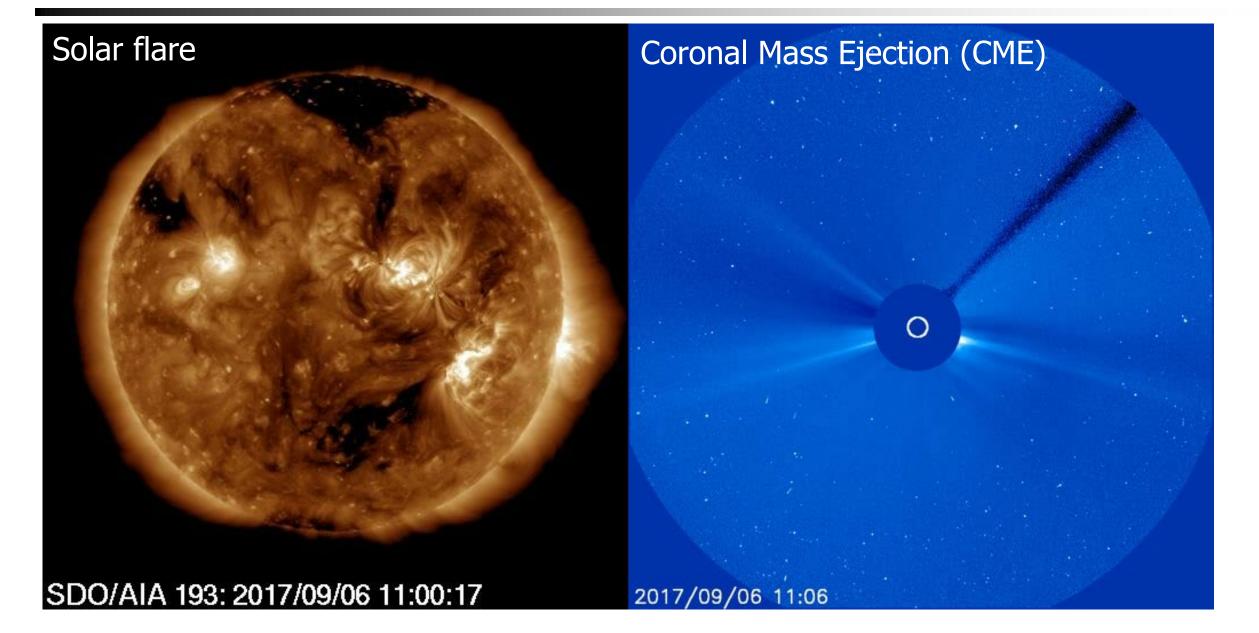
- 太陽フレア
  - 突発的で強力な電磁波放射 (電波~γ線)
  - 高エネルギー粒子
- フィラメント噴出
  - フィラメント(プロミネンス)の突発的 噴出
- ■コロナ質量放出:CME
  - コロナプラズマの突発的放出



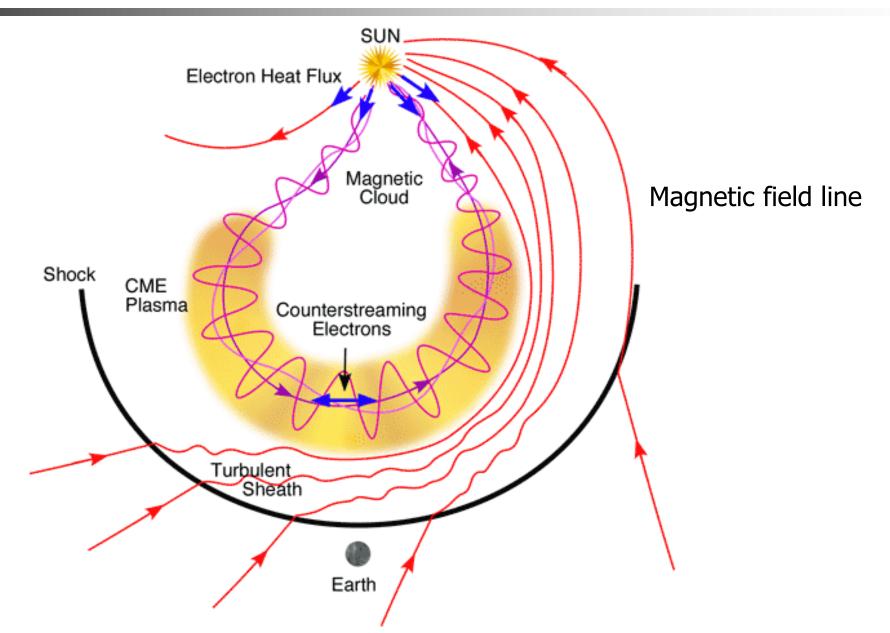
# Solar Flare and Eruption



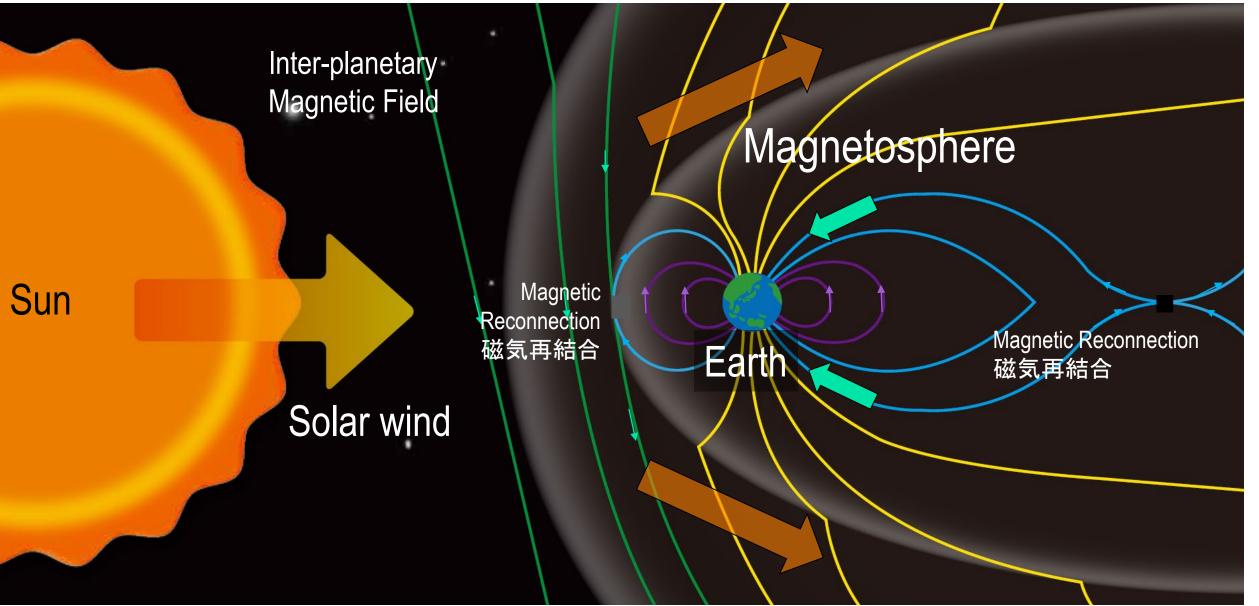
### Solar Flare and CME



### Interplanetary Coronal Mass Ejection (ICME)

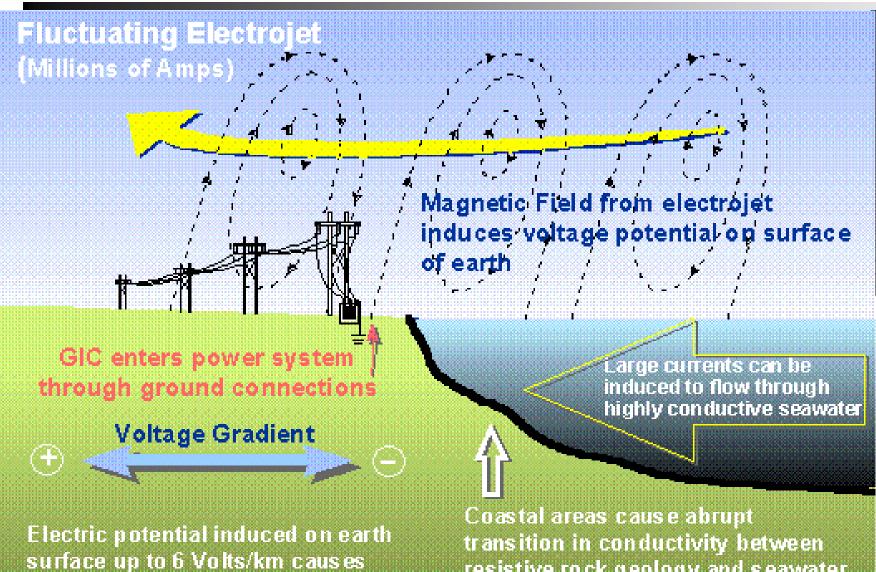


# Solar Wind-Magnetosphere Interaction



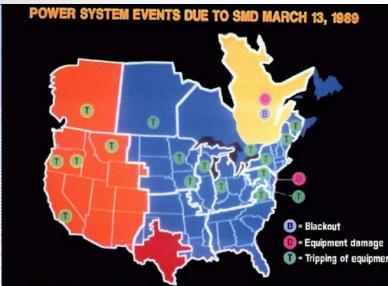


# Geomagnetically Induced Currents (GICs)



Geomagnetically-Induced Currents

resistive rock geology and seawater

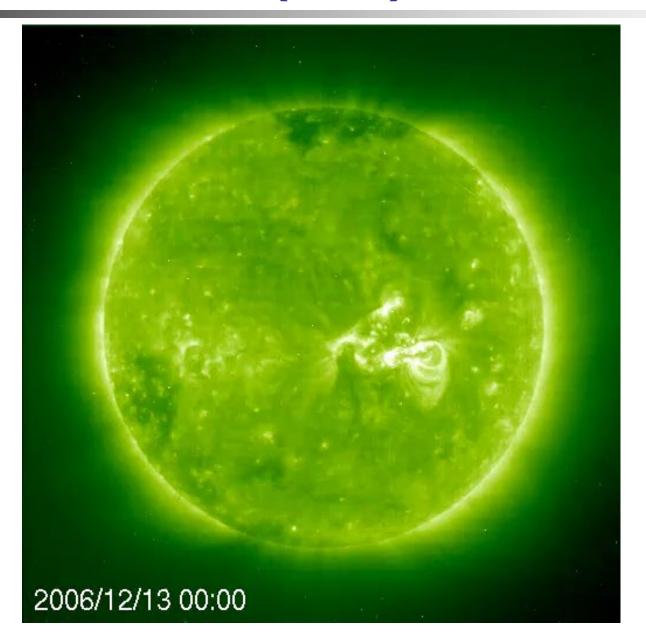


PJM Public Service Step Up Transformer Severe internal damage caused by the space storm of 13 March, 1989

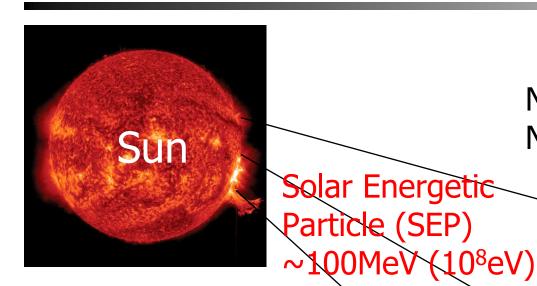




# Solar Particle Events (SPE)



### Space Radiation Health Risk



No atmosphere No magnetosphere



Mars

Thin atmosphere No magnetosphere

Interplanetary Space

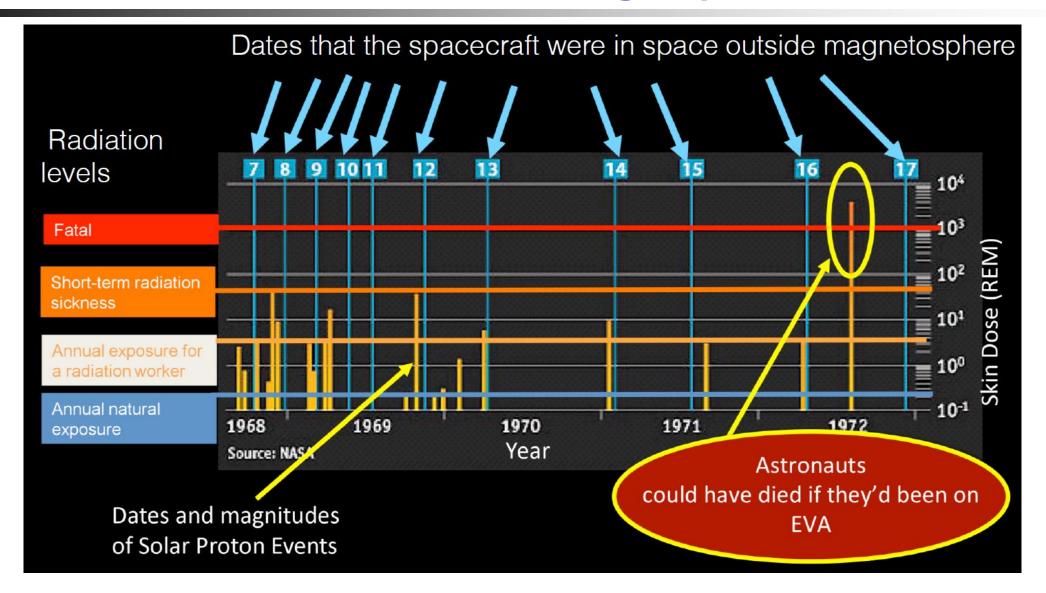
Earth



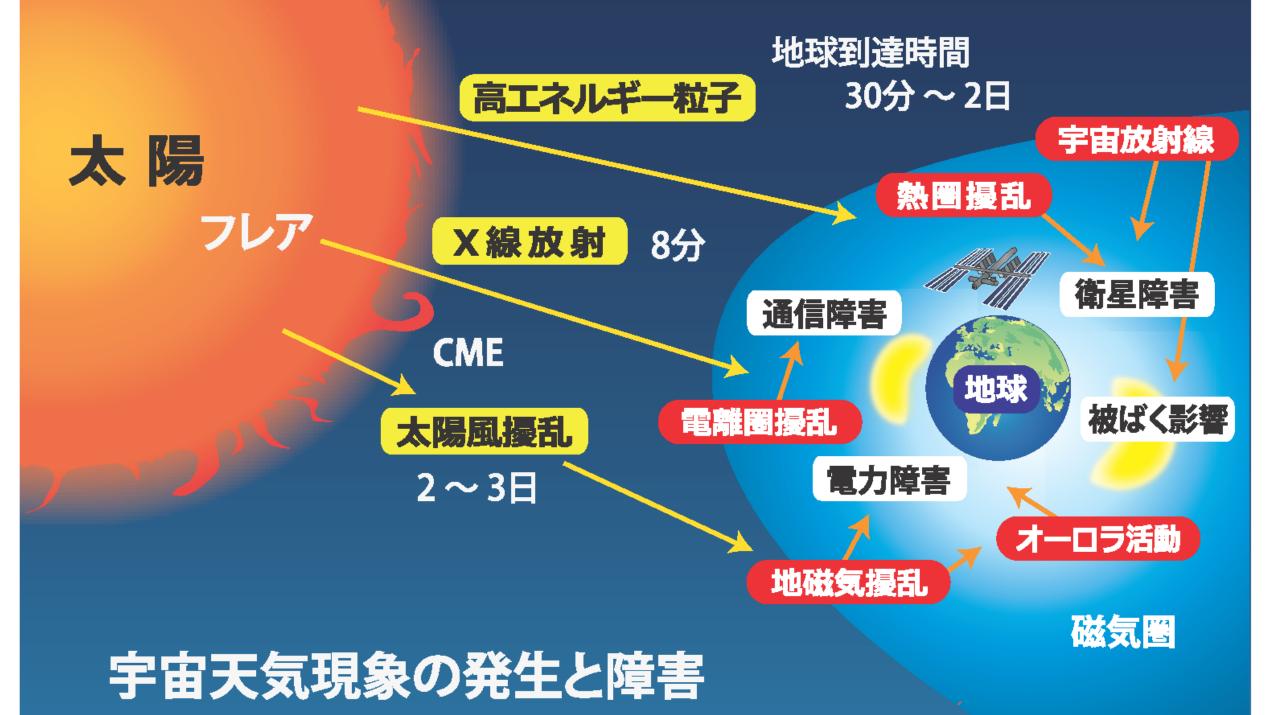
Thick atmosphere Magnetosphere

Galactic Cosmic Ray (GCR) >GeV (10<sup>9</sup>eV)

## Solar Particle Events during Apollo Missions



Courtesy of Miho Janvier (Institut d'Astrophysique Spatiale, France)



A > Business

### スペースX、スターリンク衛星40基を喪失へ 太陽嵐の影響

② 2022.02.10 Thu posted at 11:54 JST

- ・世界で躍進する半導体の黒子企業、日本回帰に秘める3つの狙い
- ·旅に出たい! CNNが海外の隠れたスポットなど紹介
- · Microsoft365と既存グループウェア連携で実現する業務効率化

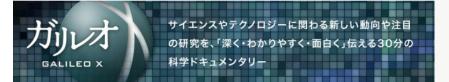


インターネット衛星49基を搭載したスペースXのロケット発射を見る人々=9日、米フロリダ州ケープカナベラルのケネディ宇宙セ ンター/Paul Hennessy/SOPA Images/LightRocket/Getty Images

ニューヨーク(CNN Business) 米スペースXが通信衛星網「スターリンク」計画の一環で今月打ち 上げた人工衛星のうち、最大40基が「太陽嵐」の影響で周回軌道から外れる見通しとなった。これら の衛星はすでに地球の大気圏に再突入したか、これから再突入するという。

スペースXは今月3日、スターリンクを構成するインターネット衛星49基を打ち上げていた。同社は現

NHK





#### 太陽フレア 現代社会への新たな脅威

∅ 明日をまもるナビ

2022年10月6日



ます。

BS12トゥエルビはいつでも無料放送!

| 韓国・韓統ドラマ | 中国・アジアドラマ | スポーツ | 旅・グルメ | バラエティ | 「特報・

BS12 | BS無料放送ならBS12 トゥエルビ > 情報・ドキュメンタリー番組 > 八□-♪宇宙天気予報

#### ハロー♪宇宙天気予報

3月29日(水)よる7:00~(第一夜) 3月30日(木)よる7:00~(第二夜)

「2025年、大規模な太陽フレアで大停電が起きるかもしれな い!?」太陽の異常活動を予測して伝える『宇宙天気予報』を軸 に、宇宙について楽しく深くお伝えする情報番組!











新着

これまでの解説記事

#### 宇宙天気警報 太陽フレアの被害を防げ

2022年04月27日 (水)

土屋 敏之 解説委員







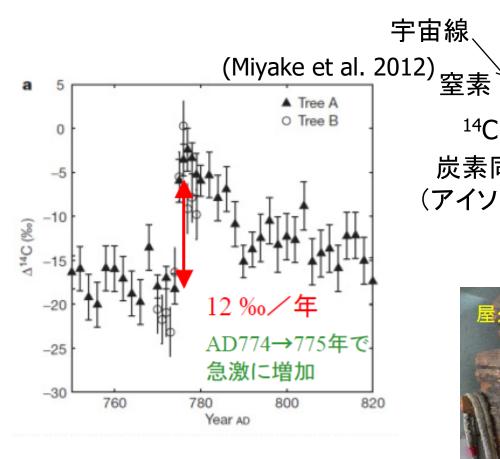
#### ます。着

いつ起きてもおかしくない

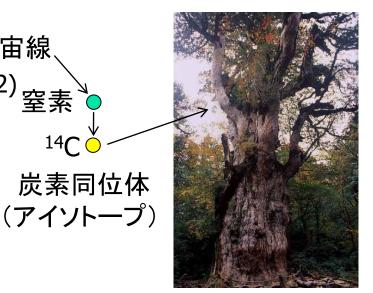
121 2022,8.9 週刊朝日

2022.9.9 120

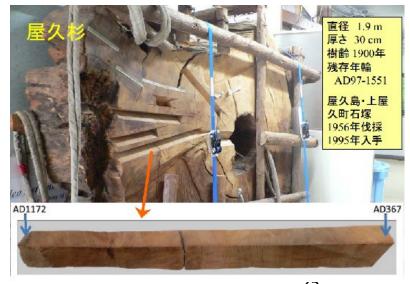
### 西暦774-775年における宇宙線増加の痕跡



a) <sup>14</sup>C濃度の変化 (1-2年値)







### 激甚宇宙天気災害

### 超キャリントン・クラス

- 樹木年輪中の炭素同位体解析 西暦774~775年及び、西暦992~993年にキ ャリントン・イベントの10倍程度の放射線急増事象が発生したことを発見 (名大: Miyake et al. 2012 Nature, Miyake et al. 2013 Nature Comm.)
- 太陽型恒星の超巨大フレアの可能性(京大: Maehara et al. 2012 Nature)

### キャリントン・クラス

記録された最大の磁気嵐

- 1859年9月 Dst~-1760nT (キャリントン・イベント) 現代において発生すれば、衛星障害、通信・測位障害など全地球的な 激甚宇宙天気災害を引き起こす。(被害総額10~100兆円と試算)
- 2012年7月 推定Dst~-1182nT(地球に到達した場合の推定) 太陽の裏面で発生したため地球には到達しなかったが、もし2週間前に発 生した場合、地球に到達し、大規模被害をもたらしたと考えられる。 (Baker et al. 2013)

### サブ・キャリントン・クラス

- 1989年3月 Dst= -589nT ケベック州大停電
- 2000年7月 Dst=-301nT X線観測衛星「あすか」制御不良 Dst: 地球磁気圏に流れる 軸対称な環電流の強さを
- 2003年10月 Dst= -422nT スウェーデン、南アフリカで送電 システム障害、火星探査機Mars Odyssey障害

表す地磁気活動度指数

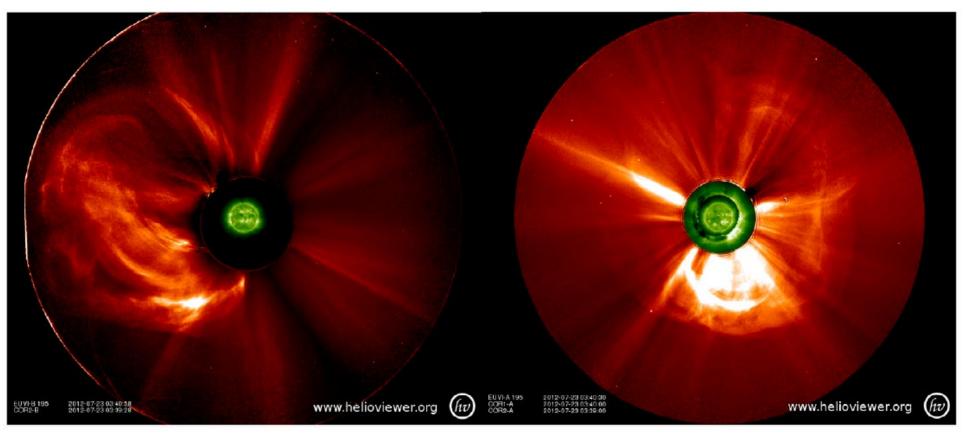
Dst (nT)

**-20**00

**-1000** 

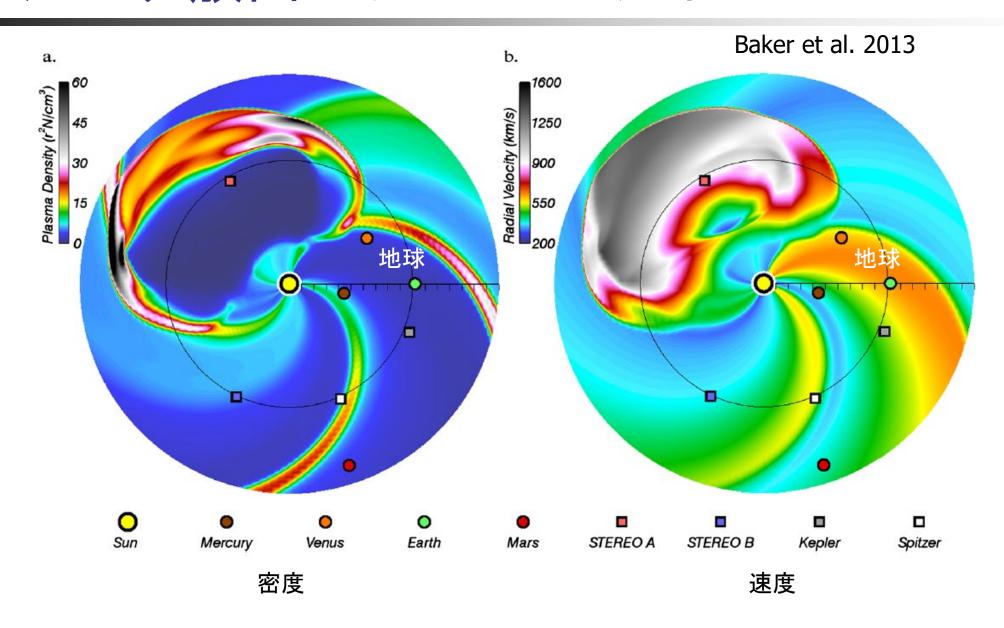
### 巨大コロナ放出(2012年7月23日)

Baker et al. 2013 Defining Extreme Space Weather Scenarios



STEREO-B STEREO-A

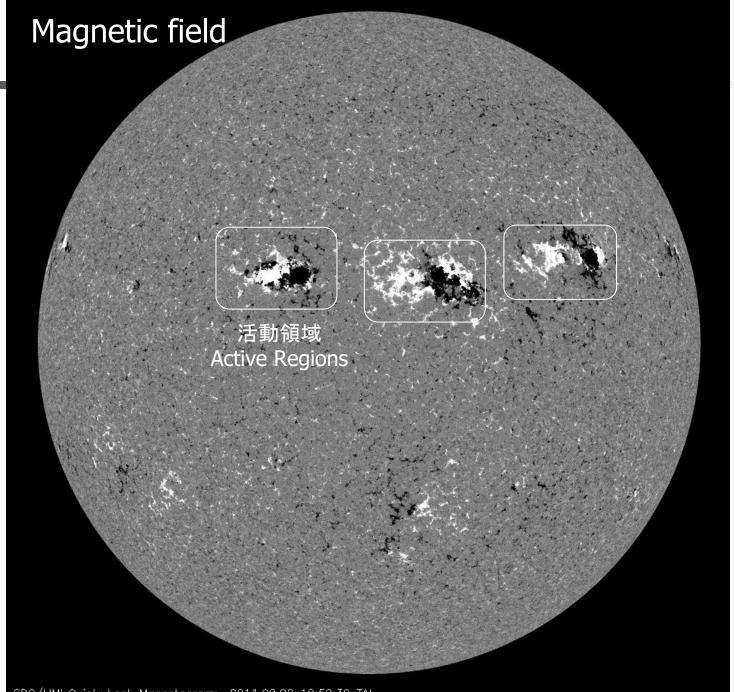
### 巨大コロナ放出のシミュレーション



### 太陽フレア予測の課題(Issues)

- 巨大フレアを如何にして予測するか? How can we predict solar flares?
  - いつ、どこで、どれほどの太陽フレアがどのように発生するのか?

When, where, and how do solar flares occur?



Observed by SDO Aug. 2, 2011

### Current status of flare prediction

precision

.43

Crown (2012)

hit rate

The currently operating flare predictions rely on empirical methods and machine learning based on the correlation between the various parameters of sunspots/active regions and flares.

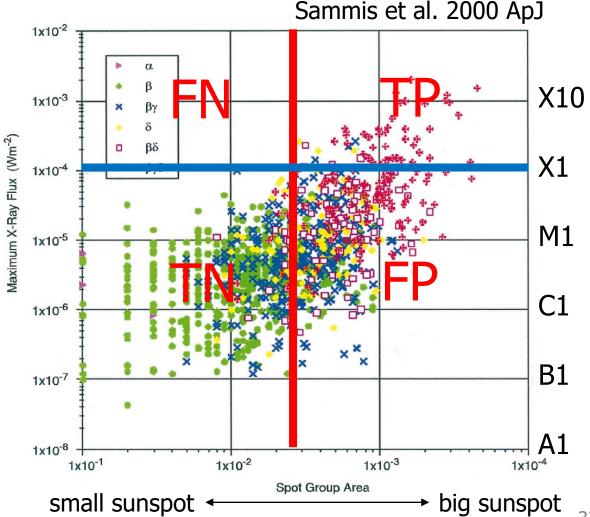
Crown (2012) NOAA/SWPC for Cycle 23

Forecast >X1 24h	Observation positive	Observation negative	
positive	50 TP	67 FP	hit rate TP/(TP+FP)~0.43
negative	52 FN	31315 TN	1
precision	TP/(TP+FN)~0.49		Nishizuka+

Nishizuka et al. (2021) Deep Flare Net

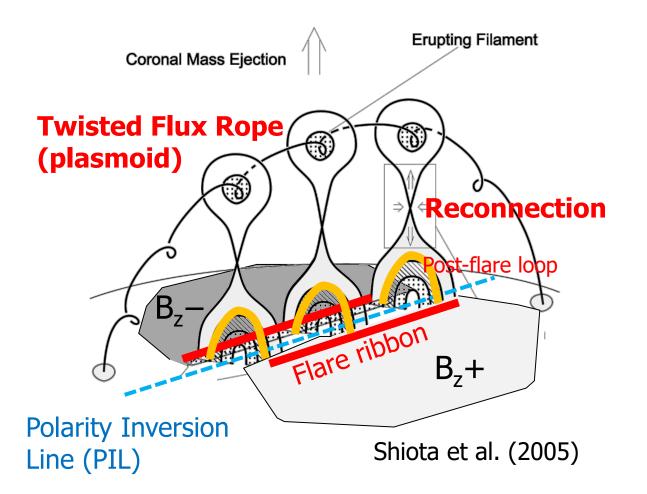
Forecast >M1 2010-2015	Observation positive	Observation negative
positive	963 <b>TP</b>	4382 <b>FP</b>
negative	54 FN	25937 TN

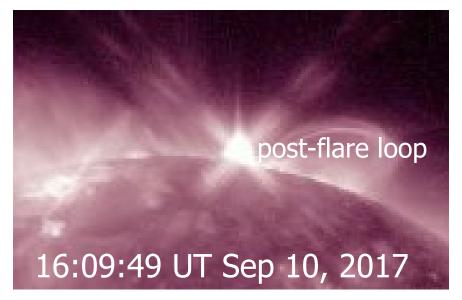
The flare X-ray flux (GOES flare index) vs. sunspot area.



### 太陽フレアの基本モデル(CSHKPモデル)

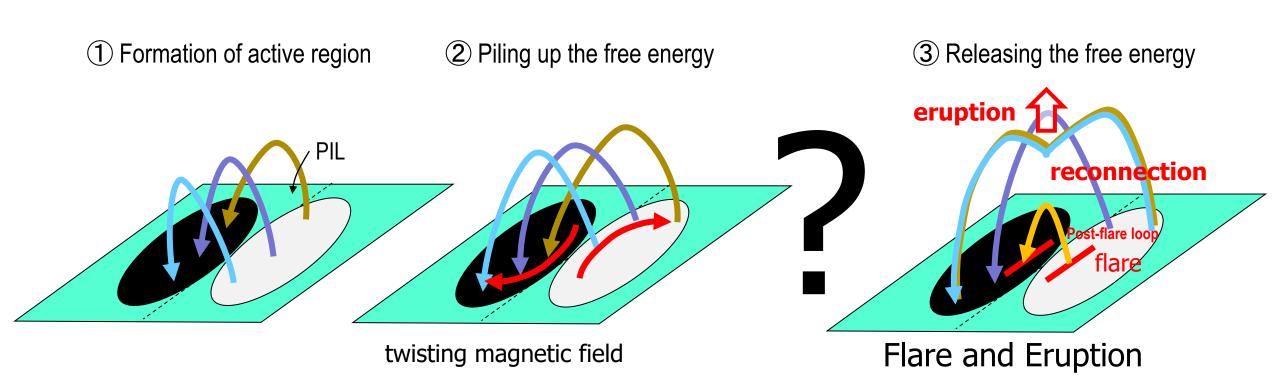
Carmichael 1964; Sturrock 1966; Hirayama 1974; Kopp & Pneuman 1976





X8-class flare on September 10, 2017 SDO/AIA 211

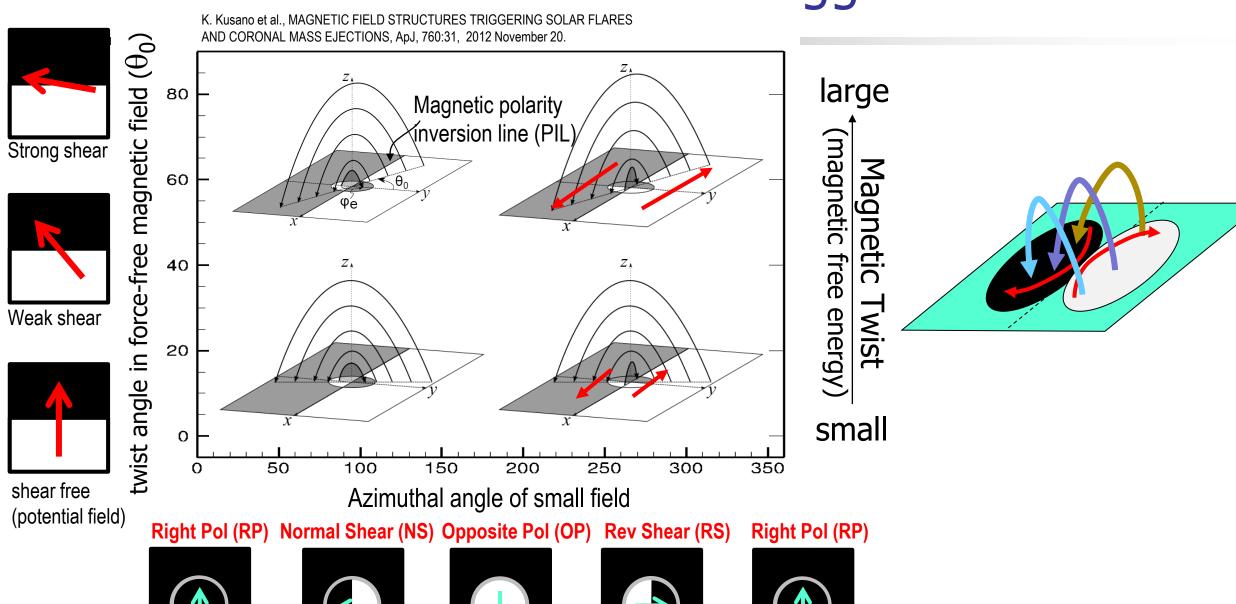
### 太陽フレアはいつ起きるの?



# What determines the onset of reconnection and eruption?

(similar to the substorm onset problem)

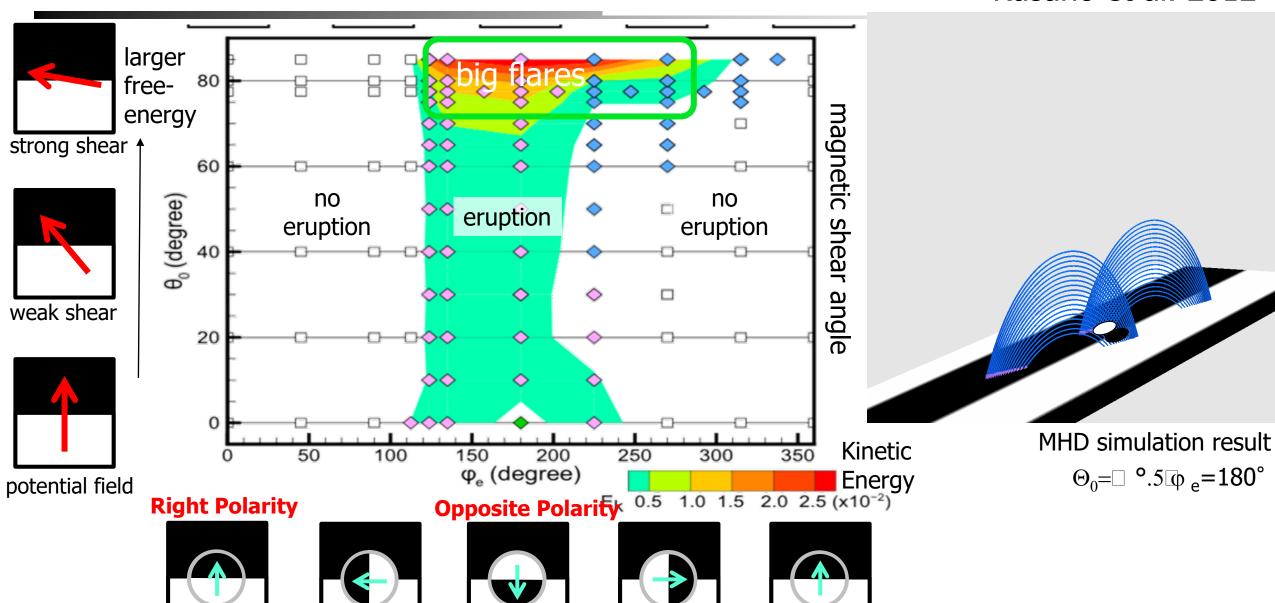
### Numerical Simulation of Flare Trigger Process



### Results of Ensemble Simulation

**Normal Shear** 

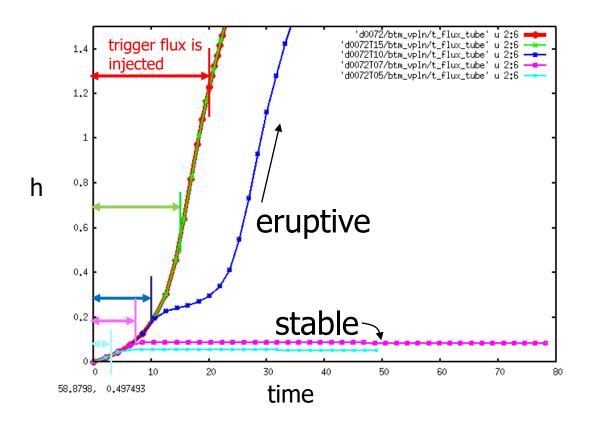
Kusano et al. 2012

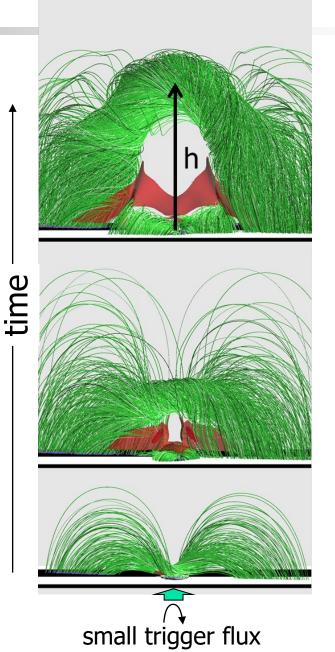


**Reversed Shear** 

### What is the Critical State?

### MHD Simulations for different trigger flux

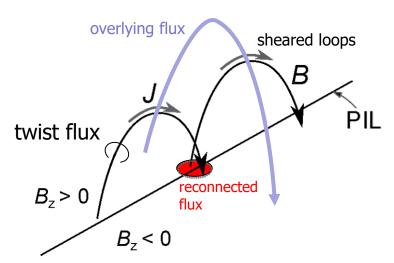


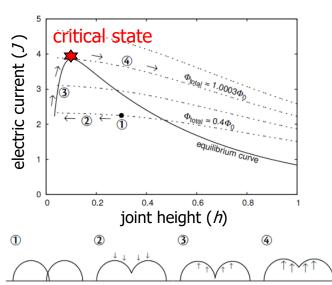


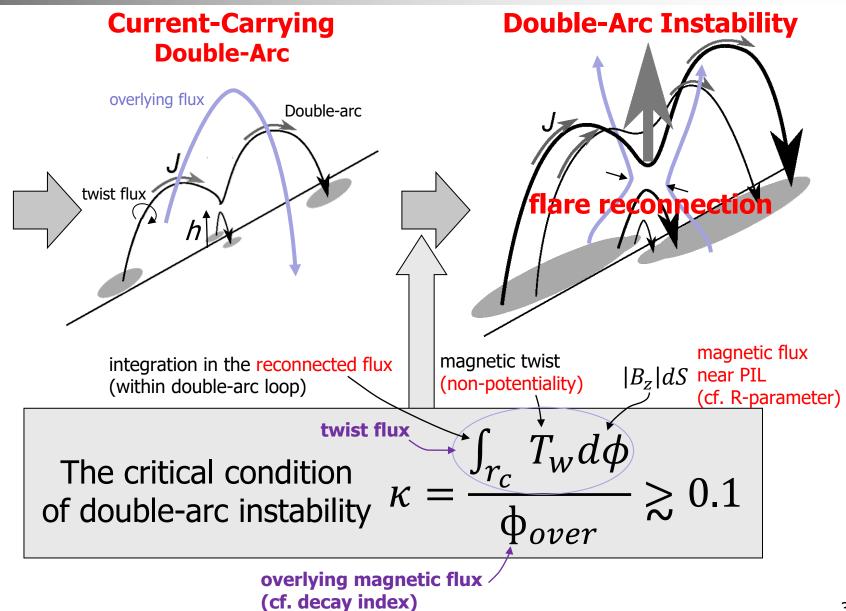
## **Double-Arc Instability**

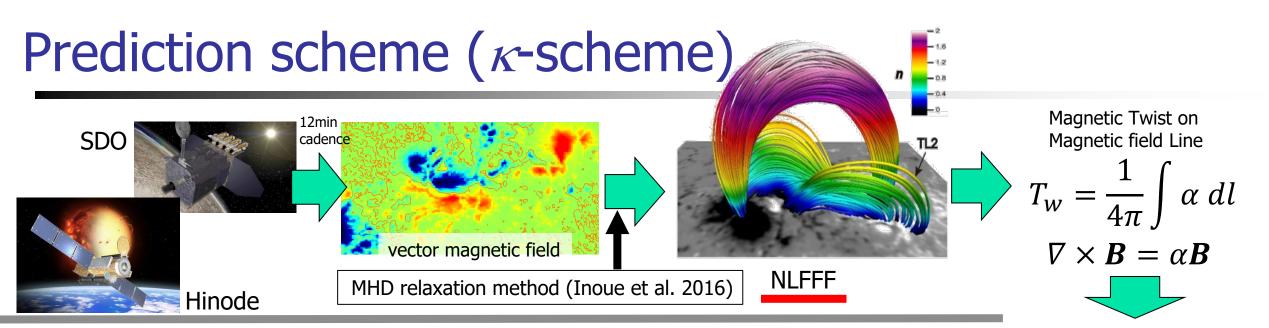
#### Ishiguro and Kusano 2017 ApJ

#### **Trigger Reconnection**









High Free Energy Region (HiFER)  $(|B_{\vec{t}}-B_{\vec{p}}|>1000\mathrm{G})$ 

Flare is most likely to occur.

The critical size of trigger-reconnection



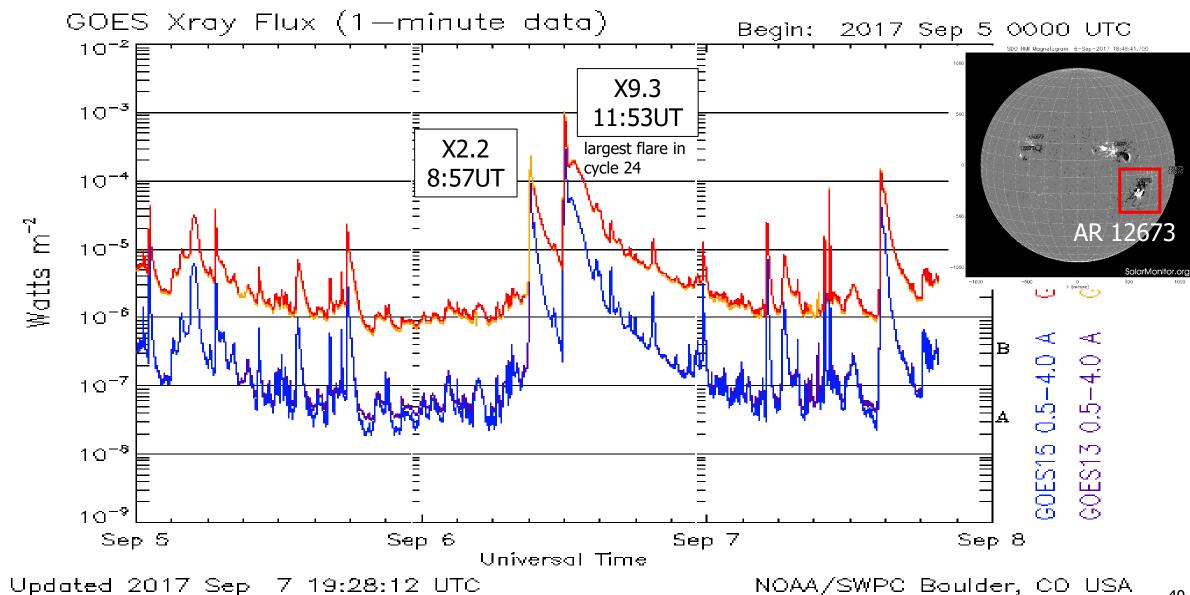
Integration over the trigger reconnection region

$$\kappa_r = \frac{\int_{r_c} T_w d\phi}{\Phi_{over}} = 0.1$$

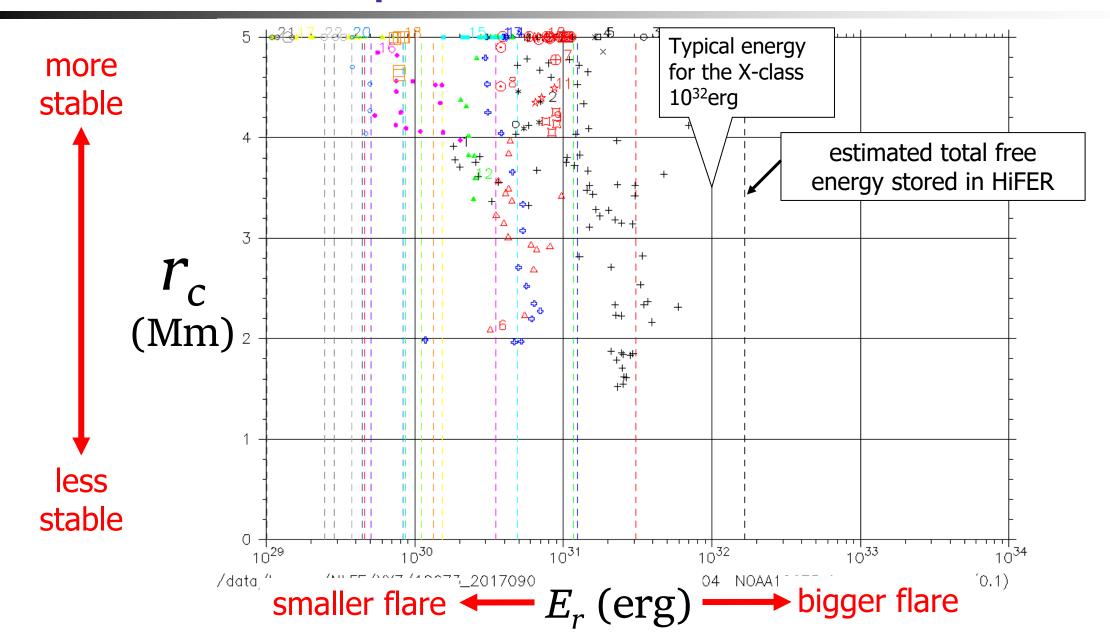
The minimum free-energy which can be released by the DAI.

$$\mathbf{E}_r = \frac{S^{1/2}}{8\pi} \int_{S} \left| \mathbf{B} - \mathbf{B}_p \right|^2 dS$$

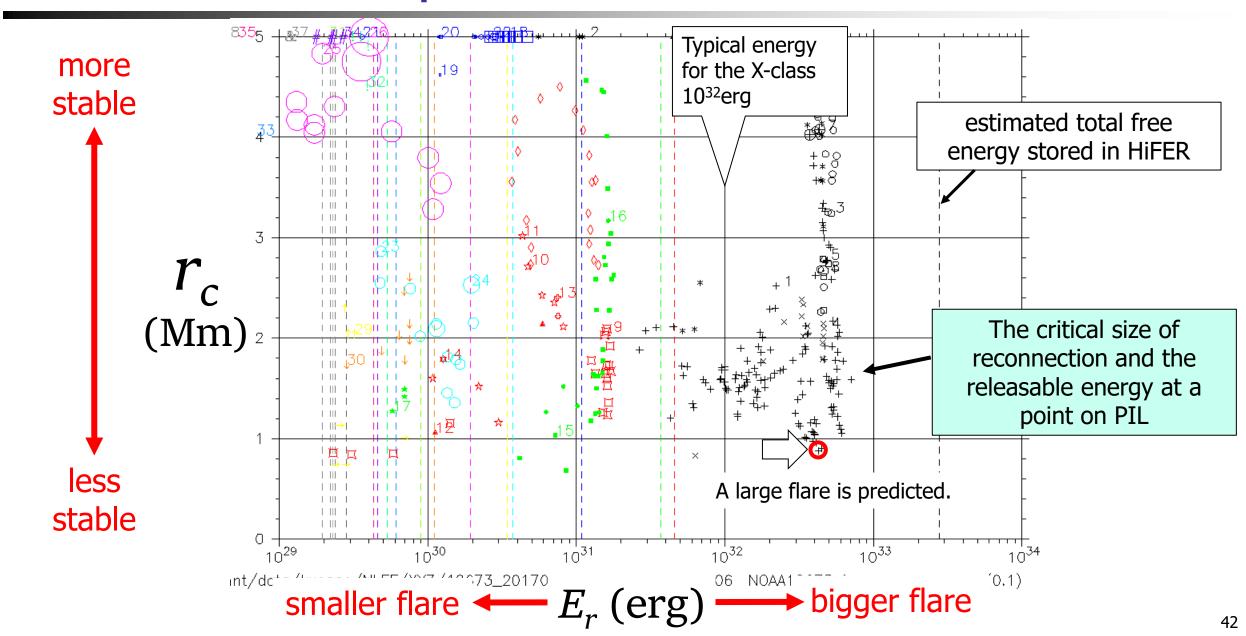
# X-class Flares on Sep. 6, 2017



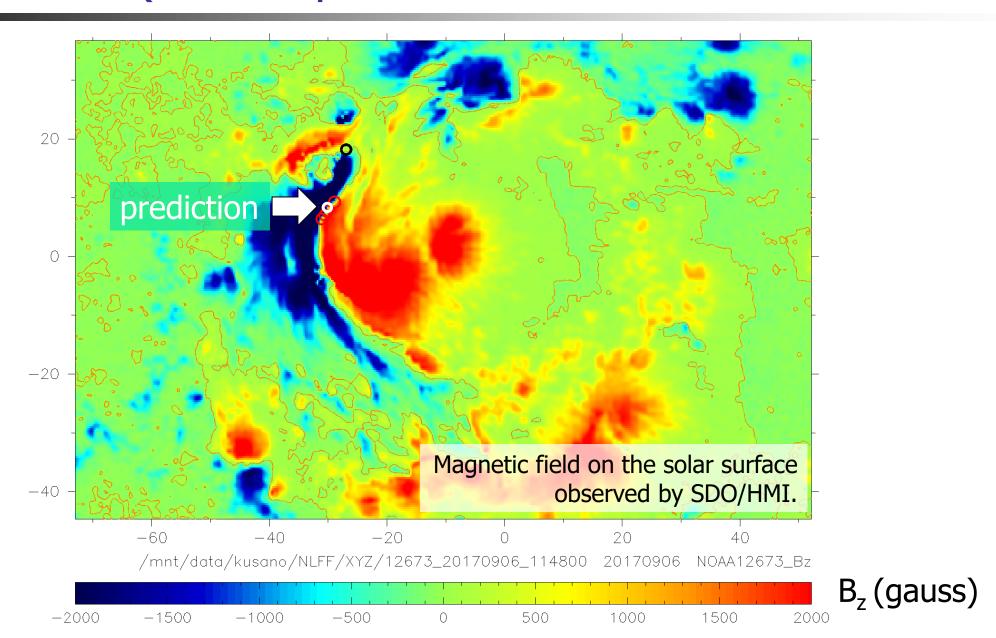
#### 5:36 UT on Sep. 4 (two days prior to the flare)



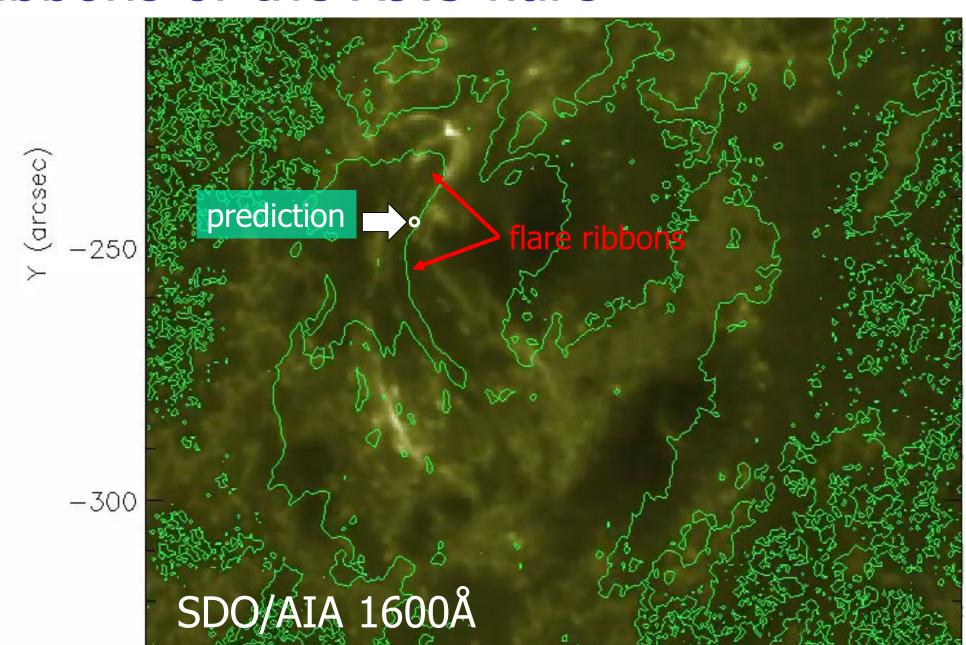
#### 11:48 UT on Sep. 6 (12 min prior to the X9.3 flare)



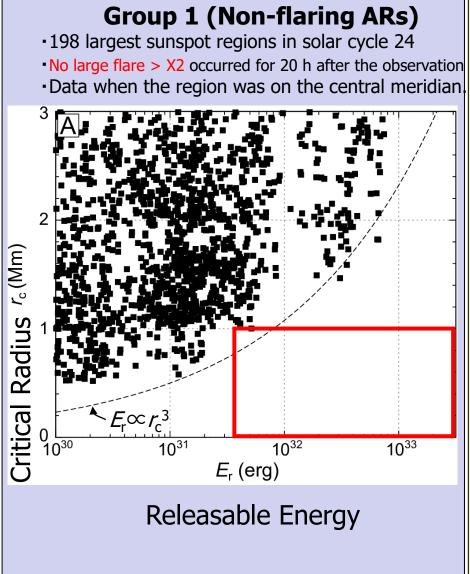
#### 11:48 UT (12 min prior to the X9.3 flare)



## Ribbons of the X9.3 flare

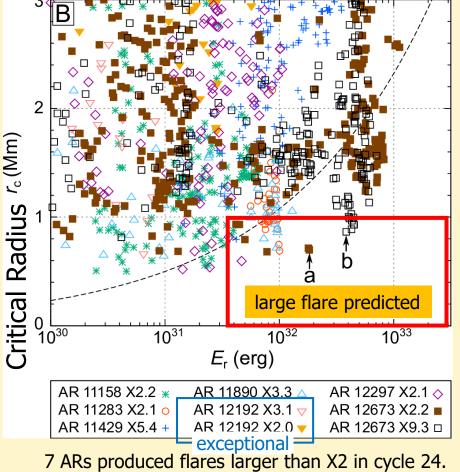


#### Statistical Analysis for 198 Largest ARs in S/C 24



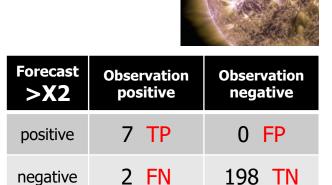
#### **Group 2 (Flaring ARs)**

•The seven active regions that produced all flares of class X2 or larger within solar latitudes  $\pm 50^{\circ}$  during solar cycle 24.

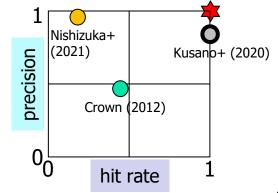


Kusano et al., 2020, A physicsbased method that can predict imminent large solar flares.

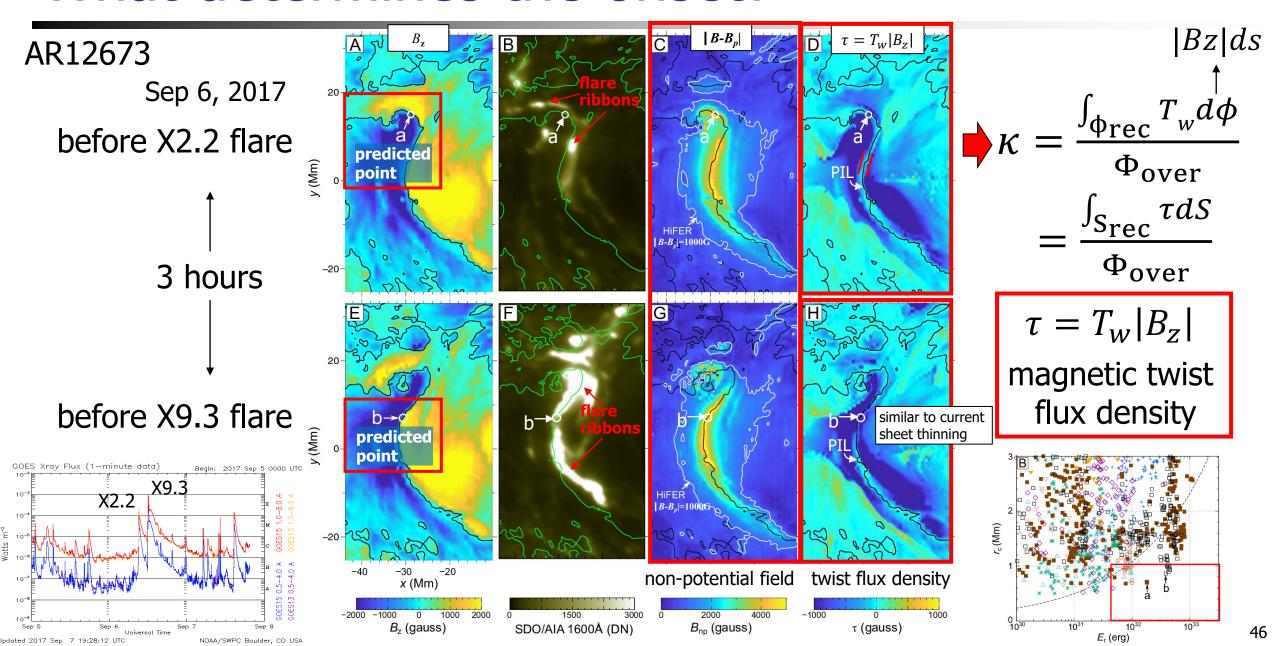
Science



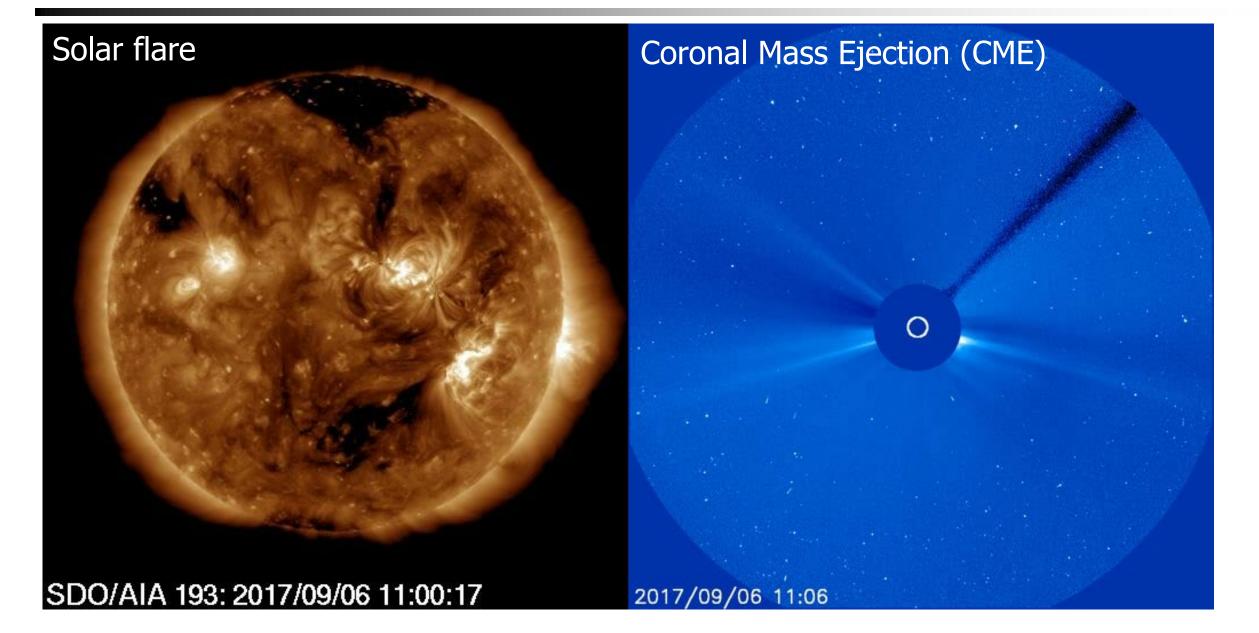
**SOLAR FLARES** 



#### What determines the onset?



#### Solar Flare and CME



## What determines the eruptivity of flares?

Yashiro et al. 2006 ApJ

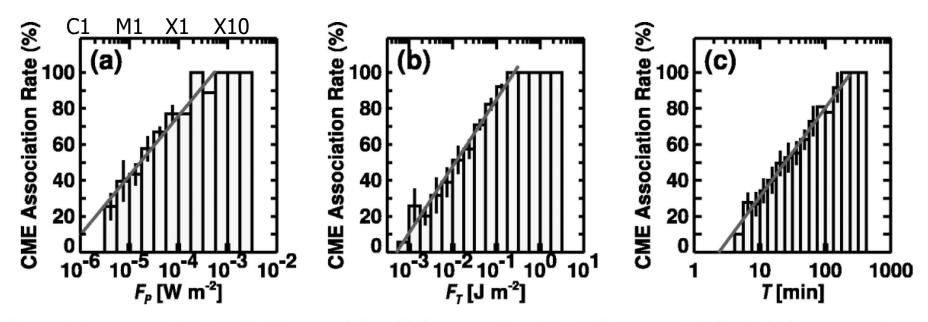
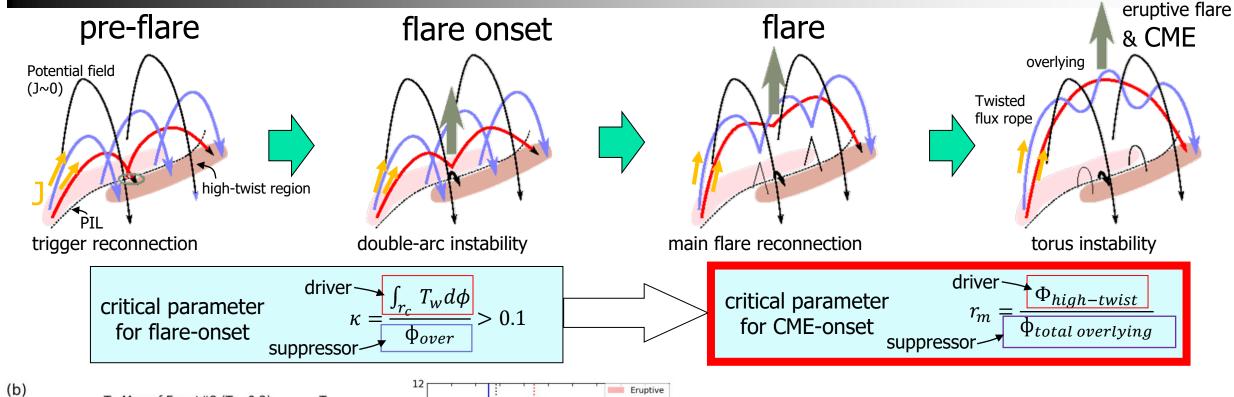
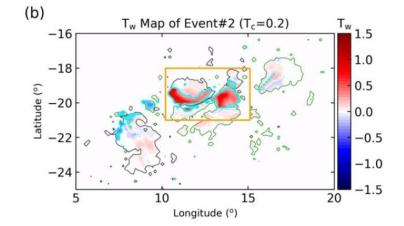
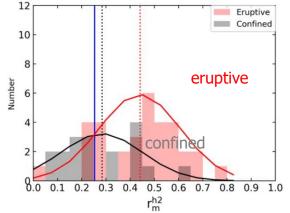


Fig. 1.—CME association rate as a function of (a) X-ray peak flux, (b) fluence, and (c) duration. The gray straight line is the least-squares fit to the data points.

# What determines the eruptivity of flares?







Forecast	Observation eruptive	Observation confined
eruptive	27 <b>TP</b>	6 FP
confined	8 FN	10 TN

 $r_{\rm m}$  is moderately able to distinguish ARs that have the capability of producing eruptive flares and CME.

Lin, Kusano et al. 2020, ApJ, doi:10.3847/1538-4357/ab822c Lin, Kusano, Leka 2021, ApJ, doi:10.3847/1538-4357/abf3c1

# まとめ summary

- 太陽周期活動は太陽内部のダイナモによって駆動されていると考えられるが、未だに明確なメカニズムは未解明である。ISEEでは、スーパーコンピュータによるシミュレーションと観測の比較によって、解明する試みを進めている。
- 巨大太陽フレアは現代社会における潜在的な脅威であり、その予測は科学課題であると共に社会課題でもあるが、巨大フレアの正確な予測は未だにできていない。ISEEでは、太陽表面磁場の精密観測に基づく新たな予測スキームを開発し、高度な宇宙天気予報のための研究を進めている。
- ISEEでは、太陽周期、太陽黒点、太陽フレア以外にも、CMEの発生と伝搬の予測、磁気 嵐の予測など様々な太陽活動と宇宙天気擾乱の予測研究を進めています。

## PSTEPオープン・テキストブック

名古屋大学学術機関リポジトリ

# NAG NAG NAG Repository 無料でダウンロード できるよ!

# 太陽地球圏環境予測

- 0.はじめに
- 1.宇宙天気と社会のつながり
- 2.地球電磁気圏と宇宙天気予報
- 3.太陽嵐と宇宙天気予報
- 4.太陽周期活動の予測と気候影響
- 5.あとがき
- 6.用語解説
- 7.執筆者•編集者紹介

#### 太陽地球圏環境予測

オープン・テキストブック (PSTEP Open Textbook)

草野完也・石井守・三好由純 一本潔・余田成男





- Solar-Terrestrial Environmental Prediction (Springer) [電子書籍版]
- 17,016円(税込)

Kanya Kusano Editor

# Solar-Terrestrial Environmental Prediction



### 太陽宇宙環境物理学(SST)研究室

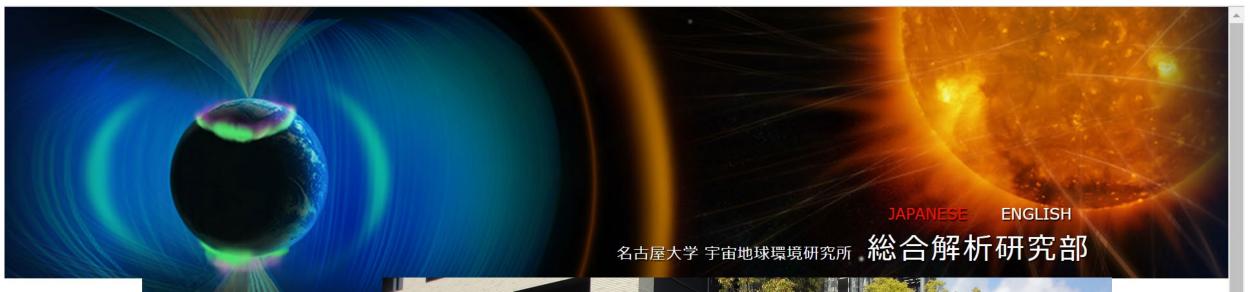
太陽・地球・惑星から成る広大なシステムで起こる多様な現象を スーパーコンピュータを駆使したコンピュータシミュレーション 人工衛星・地上観測データの総合解析

の融合によって、総合的に探ることができる世界的にも例の無い総合的研究室。

- 最先端科学研究としての太陽宇宙環境物理学
- 人間の生存環境を守るための太陽宇宙環境物理学 (宇宙天気・宇宙気候予測研究)







教授:草野、三好、堀田 准教授:増田、梅田

助教:家田

特任教授:Leka, Kistler

特任准教授:堀、中村

特任助教:10名

研究員:6名

技術職員:3名

研究支援:2名

大学院生:D3名、M15名

学部4年生: 7名



#### SST研(総合解析研究部)の研究テーマ 太陽地球結合システム

磁気圏境界乱流 極域磁場 衝擊波 コロナ加熱 差分回転 磁気嵐 コロナ質量放出(CME) サブストーム オーロラ ダイナモ プロミネンス 環電流 放射線帯 太陽風 核融合 黒点 気候変動 フレア 対流 電離層擾乱 高エネルギー粒子の加速と伝搬 彩層 沿磁力線電流結合系 子午面 循環 磁気リコネクション 太陽輻射変動 コロナホール プラズマ宇宙物理学 比較惑星科学 銀河宇宙線 太陽内部→彩層→コロナ→太陽風→磁気圏→電離圏→大気→地表

#### 研究テーマ

- 太陽ダイナモ機構、黒点形成、太陽対流層
- 太陽フレアの発生機構と予測
- 太陽フレアにおける高エネルギー粒子加速
- 太陽コロナ加熱機構
- 太陽風の形成と加速
- コロナ質量放出の形成と伝搬
- 爆発的なオーロラ発生の機構
- 放射線帯の変動機構
- 多様なプラズマ・シミュレーション研究
- 宇宙天気・宇宙気候の理解と予測

#### 学生生活の様子



世界各国との共同研究に参加し、修士課程の段階から国内外の学会等に参加・成果発表をしています。スポーツも盛ん。フットサル優勝!

#### 分野横断研究と広範なネットワーク

国立天文台

JAXA 宇宙航空 研究開発機構

NiCT情報通信 研究機構

名古屋大学宇宙地球環境研究所

国内研究機関

京都大学附属天文台



JAMSTEC 海洋 研究開発機構 海外研究 機関

核融合科学 研究所

#### 卒業後の進路

#### 修士課程卒業生:

- 宇宙航空研究開発機構(JAXA)
- ・ キャノン電子株式会社
- 三菱スペース・ソフトウエア
- 川崎汽船
- IT企業各社

#### 博士課程卒業生:

- 宇宙航空研究開発機構(JAXA)プロジェクト研究員
- プリファードネットワークス
- 日立製作所
- カリフォルニア大学バークレー校宇宙科学研究所研究員
- オーストリア科学アカデミー宇宙科学研究所研究員
- フランス国立科学研究センター(CNRS) LATMOSポスドク研究員
- 韓国チュンナム大学ポスドク研究員
- インドネシア国立航空宇宙研究所(LAPAN)

### 総合解析研究部の特徴

- 学際分野をカバーする豊富な教授陣
  - 太陽物理学、地球電磁気学、プラズマ物理学、惑星科学、宇宙物理学、 シミュレーション科学の広い分野から自由にテーマを選べる。
- ■最先端の研究に直結
  - 最新の衛星観測データ、世界最高速のスーパーコンピュータを使った研究の実践
- ■国際的な活躍
  - 修士学生から国際会議参加、国際共同研究を実施
- ■多様な進路
  - ■様々な研究機関、企業への進路が可能